

「第2回 全国ユース環境活動発表大会」 環境大臣賞 副賞 体験レポート

2017年7月、第2回 全国ユース環境活動発表大会にて環境大臣賞を受賞した長崎県立諫早農業高等学校の3名が、アメリカ・シアトルで環境調査を行いました。参加した高校生の感想を紹介します。

高校生参加による アメリカ環境調査



環境調査場所：アメリカ合衆国ワシントン州シアトル
高校生調査団：長崎県立諫早農業高等学校 食品科学科



長崎県立諫早農業高等学校
中央左から3年 木村明里さん、
2年 前田悠花さん、3年 笹木伶於さん



研修概要

●目的：コミュニティガーデン、公園等の視察、若者向けの教育・ボランティアプログラムへの参加、NPO/NGO・大学・行政への訪問を通し、米国シアトルにおける環境活動を学ぶ。

●場所：アメリカ合衆国ワシントン州シアトル

●研修場所：パイクプレイス・マーケット、アメリカ環境保護局(EPA)、Ballard Locks 水門、ワシントン大学(UW)シアトル校、ワシントン州日本文化&コミュニティセンターなど。

高校生 感想



木村 明里さん(3年)

アメリカの環境保護局(EPA)で私たちの環境活動のポスターセッションを行い、思いを伝えることができました。発表とのつながりでアメリカの廃棄物は日本と同じように堆肥として利用されていることを知りました。しかし、廃棄物として山積みにすることもあると聞きました。そこで、私達の環境活動に興味を持っていただき、参考にしてもらえることに驚きを感じました。また、アメリカの子供たちに日本の食文化を紹介できました。子供たちは興味津々に聞いてくれました。研究開発した新商品のお菓子や和紙の実物を紹介し、興味を持ってもらいました。多くの方々とコミュニケーションしたり、交流することで私は大きく成長することができました。



笹木 伶於さん(3年)

私達も自分たちで栽培した農作物を使って加工品を作っていますが、シアトルで訪れたレストランも地産地消や有機農法というコンセプトとしたもので、とても環境に優しいということが分かりました。自分たちの取り組みの一つである地域密着型について自分達との違いを知ることができました。今回の研修は日本だけでは知ることがなかった活動を知ることができたと思います。



前田 悠花さん(2年)

今回のアメリカ・シアトル研修で海外の人と交流、情報交換をする事の素晴らしさを学びました。環境保全活動はたった1人の活動だけではあまり効果が見られないと私は考えています。研修前までは日本国内の環境問題、それに対する環境保全活動等、狭い部分の活動しか学んでおらず、海外のことにはあまり興味・関心を持っていませんでした。しかし、今回海外の人との交流を通して多くのことを学び、とても視野が広がりました。国が違えば季節も違うし、季節が違えばその国にとっての大きな環境問題もまったく違うため、私の知らない部分に目を向け、それに伴った活動を行っているアメリカ・シアトルの環境保全活動にとっても関心が持てました。